

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準1 理念・目的

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2)学部（学科）・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3)学部（学科）・研究科（専攻）の育成する人間像は、明確ですか。	A
		(4)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やホームページなど)との記述の齟齬	A
		(2)教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知 ・社会に対しての公表	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	*「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0101	工学研究科・専攻の教育研究上の目的および育成すべき技術者像は大学・工学研究科ホームページ、学生便覧で公開されており、大学の基本理念、使命、教育目的を反映している [0101a] [0101b] [0101c pp. ①-②]。
0101	修了認定・学位授与に関する基本的な方針(DP)及び教育の実施に関する基本的な方針(CP)の適切性を必要に応じて専攻会議で確認している。なお、教育目的は大学のホームページで公表している [0101a]。
	学習教育目標を専攻のホームページで公表している [0101b]。また、教育研究上の目的は学生便覧を通して公表している [0101c pp. ①-②]。
0101	自己点検として毎年学生便覧の見直しを行い、専攻所属教職員が内容を閲覧したうえで必要に応じて

て修正を行っている[0101c]。	
0102 0101 で記述の通り、ホームページ、学生便覧にて周知、公表している[0101a] [0101b] [0101c pp. ①-②]。また、大学院進学説明会において進学を考える学部4年生に対して周知している[0102a]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No0102	大学院進学説明会(4年生対象)等において、研究科が求める人材を明確にし、大学院進学への動機付けを行っている。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0101	研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的との関連性がやや不明確。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果(【留意点】等)への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0101	各専攻会議において意見交換し、内容を確認している。
0102	持続社会創成教育プログラムの開始に伴い、学生便覧の更新をおこなった。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策(到達目標を含む)
No. 0101	研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的との関連性を明確にすること。
No. 0102	周知、公表に適切な媒体を使用して、研究科(専攻)の目的や育成する人間像をPRすること。
No. 0102	他大学大学院と差別化する視点で専攻の特色をより明確なものにする。
No. 0102	大学院パンフレット・専攻ホームページの整備・充実

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準 2 内部質保証

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(5)外部評価（学内のピアレビュー受審を含む）を自己点検・評価に取り入れていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
<p>0203 内部質保証のための全学的な方針に基づき[0203a]、大学全体としての自己点検・評価[0203b]、工学研究科・専攻における自己点検・評価、および個々の教職員による自己点検・評価[0203c]を行っているが、各専攻内における内部質保証システムの在り方についての議論は十分に進んでいない。</p>	
<p>0203 上記に加え、応用化学専攻では毎年 10 月頃に企業や高校の先生と学科および専攻で、アドバイザー会議を開催し、専攻の内容について現状を報告して、学外の関係者（学科OB、高校の教員、民間企業の技術者など数名）から意見を聞いている。議事録を専攻の会議で報告している[0203d][0203e]。</p>	
<p>0203 教育活動顕彰制度各賞受賞者によるFD講演会[0203f]を工学部・工学研究科において実施し、大学全体および学部・研究科で評価された模範的・先進的教育方法を配信等も用いて共有している。また、情報工学専攻では、FD活動の一環として、授業評価の結果から改善すべき点を専攻内でFD委員会を開催、検討している[0203g]。さらに、中部大学OBの意見を聞く機会を設けている[0203h]。</p>	
<p>長所・特色 <箇条書き> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 0203	応用化学専攻におけるアドバイザー会議の開催による学科と一体となった外部評価[0203d][0203e]。
項目 No. 0203	教育活動顕彰制度各賞受賞者によるFD講演会の実施と録画配信[0203f]。
項目 No. 0203	情報工学専攻における授業評価の結果から改善すべき点をFD委員会で開催、検討[0203g]。
<p>課題事項 <箇条書き> * 改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 0203	外部評価および自己点検システムが実際の改善につながっていないこと。
項目 No. 0203	専攻における内部質保証の在り方について、(大学全体の)内部質保証委員会の方針に基づいて検討する必要がある。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0203 専攻会議で改善項目についての意見交換を実施[0203a]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
0203	専攻独自の質保証システム、方法の確立と実施。
0203	外部評価 (学内内部評価を含む) の方法などについて専攻会議で議論し、できるだけ早い時期に導入する。

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準 4 教育課程・学習成果（1）

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	(1)課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針（DP）の適切な設定（授与する学位ごと）を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・学位授与の方針（DP）の設定	A
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	(1) 授与する学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(2) 授与する学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(3)授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針を社会に対し、公表していますか。	A
		(4)学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）は適切な関連性となっていますか。 ・「学位授与の方針（DP）」⇔「教育課程の編成・実施の方針（CP）」との整合	A
0403	教育課程の編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1)教育課程の編成・実施の方針（CP）と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ）	A
		(3)単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	A
		(4)個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	A
		(5)授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A

0403	教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(8)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0401	修了認定・学位授与の方針（DP）には、指導方針や養成する人物像が明記されており、各専攻会議にて検討し、原案を作成後、専攻主任会および研究科委員会において研究科内整合性等を更に検討した上で案を承認する。承認された案は、教務委員会等の大学全体レベルでの会議にて研究科間の整合性を検討し、最終決定され、大学ホームページに公開している [0401a][0401b]。
0402	教育課程の編成・実施方針（CP）には、教育内容、方法、評価法などが明記されており、各専攻会議にて検討し、原案を作成後、専攻主任会および研究科委員会において研究科内整合性等を更に検討した上で案を承認する。承認された案は、教務委員会等の大学全体レベルでの会議にて研究科間整合性を検討し、最終決定され、大学ホームページに公開している [0401a][0401b]。
0403	<ul style="list-style-type: none"> 学生便覧の各専攻履修要項において、履修方法、指導要領、修了要件、審査基準などについて明記されている [0101c]。 各専攻の教育課程は、学生が主体的に行う特別研究や、特論、研究科共通科目の講義等を適切に組み合わせた授業を実施しており、適切な教育課程を設置している [0101c pp.14-27]。特に、特別研究では、各指導教員の専門研究領域からその時代にふさわしい研究内容を選択し、行っている。また、応用化学専攻においては、連携大学院協定を結んでいる産業技術総合研究所からの非常勤講師により、学生に最先端の研究に関する講義を実施している [0403a]。 教育課程の適切性は、各専攻会議で検討された上で、変更を伴う場合においては、教育課程変更の時期に合わせて工学研究科専攻主任会で審議している [0403b]。 各学科で設定しているカリキュラムマップや履修モデルが研究科にはないので、今後の大学院進学者数増加を促進するためにも、各専攻において作成し、学生の体系的な履修につなげる必要がある。 各専門分野における技術は時代の流れとともに高度化の一途をたどっており、この流れを考慮した教育内容の継続的改善が必要である。各専攻では学科と連携し、所属教員の専門性に基づき、常に大学院教育課程の見直しと点検を継続的に行う必要がある。
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0403	応用化学専攻においては、連携大学院協定を結んでいる産業技術総合研究所からの非常勤講師により、学生に最先端の研究に関する講義を実施している [0403a]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0403	各専攻におけるカリキュラムマップ、履修モデルの作成。
項目 No. 0403	時代に即した技術の修得に向けた継続的な教育課程の見直し。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

0403 情報工学科ではプログラミング教育の再構築に向けたアンケートを実施して調査をするとともに、専攻内における議論を継続している。

0403 電気電子工学に関する技術は時代の流れとともに高度化の一途をたどっており、この流れを考慮した教育内容の継続的改善が必要である。そのため、電気電子工学専攻では学科と連携し、所属教員の専門性に基づく教育課程の変更を適宜行っている[0403c]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0403	各専攻においてカリキュラムマップ、履修モデルを作成し、学生の体系的な履修につなげる。
0403	カリキュラムの教育効果を確認し、継続的な教育課程の見直しと改訂を行う。

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準 4	教育課程・学習成果（2）
------	--------------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1)各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	学部のみ
		(2)シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保	B
		(3)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	A
		(4)授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	A
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1)シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2)既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3)成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	C
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4)卒業・修了要件を明確に定めていますか。	A

	(6)学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示され、かつ公表されていますか。	A
	(7)学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	A
	(8)学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。	A
	(9)適切な学位授与を行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
<p>0404</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスには「授業の趣旨」、「具体的達成目標」、「授業計画」、「授業方法」、「成績の評価方法」、「成績の評価基準」が必須項目として記載されており、「授業計画」は授業の各回の具体的内容と予習・復習の指示を含んでいる [0404a]。毎年年度末に専任教員によるシラバスの第三者点検をおこなっている [0404b]。シラバスと実際の授業の整合性を組織的にチェックする方法については現状では課題がある。 一方的な講義だけでなく、必要に応じて適宜演習や実習を行っており、成績評価も教員との議論内容やプレゼンテーションなど受講者の主体的な行動を評価項目の一部としている [0404c]。 年に一度、工学研究科工学部交流会を実施し、研究発表の場を設けている。交流会には多くの学部生も参加し、大学院進学を促進すると共に、専攻横断的に研究の進捗状況を発表する機会を設定することで、院生にとってもよい刺激となっている [0404d]。 大学院入学後速やかに学修計画の策定と提出を義務づけており、それらの計画に沿った研究指導を各研究室において行っている [0404e]。また、学位論文提出の時期においては、専攻主任会で当該年度の提出スケジュールを策定し、工学研究科委員会において承認した上でホームページ上に掲載している。ホームページ上では、修士論文提出に係る必要書類の様式も併せてダウンロードできるようになっている [0404f]。 2021 年度から始まった持続社会創成教育プログラムについては中間審査要項など研究科で作成しているが、既存の課程における修了判定との関連性についてなど、まだ定まっていない事項は多い [0404g]。 <p>0405</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバスに明記された「達成目標」「成績評価方法」に基づき、成績評価を実施している。 各科目における成績評価の客観性、厳格性を必ずしも組織的に確認できていない。 修了要件、修士・博士論文の審査基準は学生便覧で明確に規定している [0101c pp. 12-13]。 修士論文中間発表会および修士論文発表会を各専攻において実施している [0101c pp. 11]。 学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するため、専攻主任会および研究科委員会において専攻間のチェック体制が構築されている。博士前期課程においては、修士論文テーマおよび主査・副査について各専攻より研究科委員会に提示し、適切性を確認した上で承認している [0405a]。また、各専攻の審査委員会による審査結果は、研究科委員会において共有され、学位授与の妥当性を十分に議論した上で、修了認定を行っている [0405b]。 博士後期課程については、工学研究科内における取扱内規を制定し、学位請求要件、手続き、責任体制を明確に示している [0405c]。博士学位論文を提出する場合には、まず専攻内において予見審査を実施し、学位請求が妥当であるかの判断を行う。予見審査の結果は、工学研究科専攻主任会において審議を行い承認された上で、D○合教員で構成された工学研究科資格審査会にて学位審査請求の受理判定を行い、審査委員会を立ち上げる。博士論文審査の客観性の確保のために審査委員の内、一名は外部委員（他専攻、他研究科、他大学）を入れることを取扱内規において規定している。審査委員会による審査結果は、前述の研究科資格審査会において主査より報告され、学位授与についての投票を行う [0405d]。投票結果は、続く研究科委員会において共有され、学位授与の判定を行う [0405b]。

長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0404	工学研究科工学部交流会を開催し、研究発表の場を提供すると共に大学院進学を促進している[0404d]。
項目 No. 0404	工学研究科ホームページの在学生専用ページに論文提出のための日程および様式を掲載している[0404f]。
項目 No. 0405	博士学位論文の取扱内規を制定し、学位請求にかかる必要事項を明確に示している。
項目 No. 0405	博士学位論文の審査手順が規定されており、審査の客観性および厳格性が確保されている[0405c]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0404	シラバスと実際の授業の整合性を組織的にチェックする方法については現状では課題がある。
項目 No. 0405	単位認定の基準を明確にする
項目 No. 0405	成績評価の客観性の組織的確認体制が全部の授業には行き渡っていない

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0404	これまで一部のシラバスに必要な記載が不足しているなどの問題があったので受講者の視点からみてより確かな情報を提供できるシラバスを目指して、所属教員全員によるシラバスのピアレビューを実施し記載内容の改善に取り組んでいる[0404b]。 0404 大学全体に向けて実施されているFD講演会やFD活動に参加して学生の主体的参加を促す授業方法についての情報収集をしている[0404e]。
0405	以前は修士研究の研究計画は各受講者とその指導教員に任されていたが、現在では学修計画を大学院入学当初に策定することを義務付け、そのための統一した書式も用意するなど改善に取り組んでいる[0404e]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0404	学科教員による無作為な授業参観実施による授業内容とシラバスの整合性の組織的チェックをおこなう体制の導入
0405	シラバスの第3者点検時に期末試験、課題レポート等の実施状況を併せてチェックする体制の導入

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準 4 教育課程・学習成果（3）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果をIRデータも踏まえて適切に把握し、評価していますか。	(1)学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの）	A
		(2)成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	学部のみ
		(3)学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	B
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、IRデータも活用して定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	B
		(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p> <p>0406</p> <ul style="list-style-type: none"> コースワークに関しては学習成果を科目毎に評価し、S, A, B, C 等、GPA などの指標により点数化される [0101c p. 2] もの、DP に明示した学生の学習成果を IR データも踏まえて適切に把握しておらず、日常的に活用できる IR システムは存在しない。そのため、学修成果の把握や評価が担当教員任せになっている。 教員は所属学科の学生の各科目の成績（S, A, B, C 等）と全科目平均の GPA は、確認することができるシ
--

<p>システムになっている[0406a]。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門的な職業を担う為に必要な能力の修得については、各種資格試験（例えば情報処理技術者試験、TOEIC）などを使って把握している専攻もある。[0406b] 修士修了時に「卒業時アンケート」を実施し、意見聴取を行っている専攻もある。[0406c] 	
0407	
<ul style="list-style-type: none"> 各教員が毎年度初頭に「教育活動重点目標・自己評価シート」を提出して当該年度の重点目標を設定し、これを学部長・学長が点検する。また、年度終わりに同シートに自己評価を記して提出し、これを学部長・学長が点検している[0203b]。ただし、自己点検体制が不完全であり、専攻として自己点検・改善システムの検討が必要。 各専攻会議において教員から意見を求め、教育課程およびその内容、方法の適切性などについて、DP、CPに基づき自己点検を行い、専攻主任会で審議している[0403b]。ただし、現状ではIRデータも活用した定期的な自己点検・評価は行なわれておらず、数も少ないことからIRデータの取得や保存、活用は成されていない。 評価・改善の仕組みの一つとして、専攻独自の外部評価会議（例えば、応用化学専攻の「アドバイザーボード会議」[0203d][0203e]、毎年開催）を設け、委員からの意見聴取を行う取り組みもある。さらに、教育組織の改善・向上に向けて、専攻独自のFD委員会を組織し、講演会やオンデマンドによる動画活用などの積極的なFD活動を実施しているなどの取り組みもある。[0203f] 	
<p>長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 0406	(情報工学専攻) TOEICを受験させており、6月にM1、12月にM2を受験させ、その成績を確認することで教育上の改善点を学科会議で議論している[0406b]。
項目 No. 0406	(応用化学専攻) 学科・専攻独自の卒業時アンケートの実施[0406c]。
<p>課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 0406	IRデータを日常的に入手・活用できるシステムの構築が必要。
項目 No. 0406	学修成果の把握や評価が担当教員任せになっている。
項目 No. 0407	自己点検体制が不完全であり、専攻として自己点検・改善システムを検討する。
項目 No. 0407	各種資格試験は全員が受験するとは限らないため正確な全体像が見えない。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
0407	目標に応じて科目が履修できるように、科目群を系統的に分類する。
0407	プログラミング教育に関する教員アンケート実施、および将来の教育内容計画案を作る取り組みを開始している。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0406	専攻としての学習成果評価方法、点検方法などPDCAシステムの検討と確立。
0406	IRデータの取得や保存、活用するシステム構築のための検討。
0407	PDCAシステムの検討。
0407	IRデータの取得や保存、活用するシステム構築のための検討。(TM)
0407	月例専攻会議において十分に情報交換し、学習成果を定量的に把握し、客観的な評価法を確立する[0407b]。
0407	特定分野毎に関係教員が定期的に集まり、シラバス内容の精査を行う機会を作る。
0407	カリキュラムの確認、問題点の抽出及びその改善。

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準 5 学生の受け入れ

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	(1)学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	A
		(2)明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とホームページ等の媒体間の記述の統一	A
		(3)社会に対し公表していますか。	A
		(4)下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP) の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
0502	入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1)入学者受入れの方針(AP)と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	A
		(2)入学者受入れの方針(AP)に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施の方針 (CP) と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	A
		(3)授業その他の費用や経済的支援に関する情報を提供していますか。	A
		(4)入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	A
		(5)公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(6)入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	(1)入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・収容定員に対する在籍学生数比率	B
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、IR データも活用し、公正かつ適切に実施されているか定期的に検証を行っていますか。	(1)学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・学部内委員会等において根拠資料に基づいた定期的な検証	B
		(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
0501	DP、CPを踏まえたAPを設定し、大学のHP[0401b]で公表しているが、具体的な能力水準は入学試験結果の判定基準により判断するため公開はされていない[0501a]。また、求める学生像を判断する基準は明確になっていない。
0502	学生募集、入学者選抜制度、授業その他の費用や経済的支援に関する情報を含め、大学院入試要項が大学HP上で公開されている。[0502a]工学研究科専攻主任会での入試判定[0403b]、全学の入学者選抜会議で、透明かつ公正な選抜が実施されている。さらに、秋学期入学[0502b]にも対応し、海外の学術交流協定機関からの入学希望者に対し事前審査制度[0502c]を設けている。しかしながら、APと入試形態の整合性、CPと学生募集方法、入学者選抜方法の連関性は明確でない。
0503	定員設定は行っているが、定員管理は不十分である。
0504	博士前期課程はほぼ定員通りに管理できているが、博士後期課程では不足している専攻も多い。博士後期は社会人を積極的に受け入れるなどの改善に取り組んでいるが、学生募集および入学者選抜に関する検証、改善も不十分である。
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0502	博士前期、後期課程において、秋学期入学制度を整備している[0502b]。
項目 No. 0502	海外の学術交流協定機関からの入学希望者に対し事前審査制度を設けている[0502c]。
項目 No. 0504	社会人大学院博士後期課程学生の受け入れにより収容定員を確保している。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0501	具体的な能力水準まで含めたAPの検討。
項目 No. 0502	APと入試形態の整合性、CPと学生募集方法、入学者選抜方法の連関性に関する検証と改善。
項目 No. 0502	APに「グローバルな視点から物事を考え、国際的な対応力を涵養する志を持っている。」とあるがグローバルな視点から物事を考える志を持っているかの判定方法が不明確である。

項目 No. 0502	大学院入試において外国語（英語）の評価基準を明確にする。
項目 No. 0503	適切な定員管理。
項目 No. 0504	学生募集および入学者選抜に関する検証、改善。
項目 No. 0504	AP に基づき、学生募集および入学者選抜が公正かつ適切に実施されているか、IR データを用いて定期的に検証する必要がある。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0502	大学院入試要項の確認と見直し、および定員管理（定員の確保）について工学研究科専攻主任会、工学研究科委員会での検討を行っている[0403b]、[0405b]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0501	入学者の資質、能力など具体的な AP の検討
0502	AP と入試形態の整合性、CP と学生募集方法、入学者選抜方法の連関性に関する検討と改善の推進。
0502	グローバルな視点から物事を考える志を持っているかの判定方法として面接を活用するなど、判定方法を明確にする。
0503	適切な定員設置とその充足について、広報活動の強化、推進を図る。
0504	学生募集および入学者選抜に関する定期的な検証、継続的な改善を図る
0504	大学院の学生募集や入学者選抜に活用できる IR 情報を取得する方法や活用するシステムを検討する。
0504	内部進学志望者の増加と外部を含めた学生募集の強化

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1)大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	B
		(2)教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教員組織の編成に関する方針と教員組織の整合性 ・各学位課程の目的に即した教員配置 ・国際性、男女比 ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師または助教）の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮	B
		(3)教養教育の運営体制を整備していますか。	A
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1)教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	A
		(2)規程等に従った適切な教員人事（募集、採用、昇任等）を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1)FD活動を組織的に実施していますか。	B
		(2)教員の教育活動、研究活動、社会活動等を実施し、その結果を活用していますか。	B
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠

資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施して、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」 検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
<p>0602 ・工学研究科資格審査会での教員審査[0602a]を通じて、適切な専任教員数の確保、教育理念・目的を実現できる教員組織の編制に努めているが、年齢構成や男女比に偏りがあり、また、教員の授業担当負担への適切な配慮が十分とは言えない等の改善点もある。 ・専攻の教員による工学研究科共通科目や持続社会創成科目などの教養教育体制も整備されている[0602b]。</p>	
<p>0603 ・教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる募集・採用・昇格等の運用が行われているが、教員人事の適切性に関して改善の余地がある[0603a]、[0603b]。 ・昇格に関する評価基準を、研究業績、教育業績等に関してポイント化し明確にしている。2021年度に工学部教授会においてポイントの見直しを審議した[0603c]。</p>	
<p>0604 ・教員の教育・研究・社会活動については教育活動重点目標自己評価シート等で自己評価を行っている[0203c]。 ・教育活動顕彰制度各賞受賞者によるFD講演会[0203f]を工学部・工学研究科において実施し、大学全体および学部・研究科で評価された模範的・先進的教育方法を配信等も用いて共有している。 ・研究科全体および各専攻でFDを実施しているが、点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みは不十分である[0604a]。専攻で独自のFD委員会の組織設置とFD講演会を実施[0604b]。</p>	
<p>0605 教員組織の適切性についての定期的な自己点検・評価は必ずしも行っていない。</p>	
<p>長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 0603	大学院担当資格に関する評価基準を研究、教育業績等からポイント化し、昇格基準を明確にしている。また2021年度には見直しを行った[0603c]。
項目 No. 0604	教育活動顕彰制度各賞受賞者によるFD講演会の実施と配信[0203f]。
項目 No. 0604	(応用化学専攻) 専攻独自のFD委員会の組織設置とFD講演会の実施[0604b]。
<p>課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点</p>	
項目 No. 0602	教育理念・目的を実現できる教員組織に関する点検と改善。
項目 No. 0603	教員人事の適切性に関して、募集、採用段階での透明性、公平性の確保。
項目 No. 0603	教員不足で、年齢構成も高いため、若手を採用する。
項目 No. 0604	FDの点検・評価結果に基づく教員の資質向上の取り組み。
項目 No. 0605	教員組織の適切性についての定期的な自己点検・評価と改善の取り組み。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

<p>対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない</p>	
0602	女性教員、若手教員の採用を積極的に行っている。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0602	教育理念・目的を実現できる教員組織に関する点検、検討、改善の推進。
0603	教員人事の適切性に関して、募集、採用段階での透明性、公平性の確保を図る。
0604	FD活動の活発化とその点検・評価結果に基づく教員の資質向上の取り組みを推進。
0605	教員組織の適切性についての自己点検・評価と、それに基づく改善の取り組み。

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準7	学生支援
-----	------

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2)学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 	A
		(4)学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み ・生活支援面において、方針の目的（安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等）の支援 	A
		(5)学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の実施 ・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施 	A
		(6)学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定または当該機会に関する情報提供 	A

	(7)インターンシップは十分に実施していますか 【 学 士 課 程 】 ・充実したインターンシップの実施 【 修 士 課 程 、 博 士 課 程 】 ・実施可能な体制の整備	A
	(9)学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0702 ・主指導教授に加えて副指導教授2名を配置し、学修および生活支援体制を構築し、学修ポートフォリオ[0406a]や年度始めに提出を求める学修計画書[0404e]を利活用して成績不振、留年・休学者、退学希望などを含め、学生指導にあたっている[0702a]。多様な学生に対する修学支援、障がいのある学生に対する修学支援については、必ずしも十分でないところもある。留学生の日本語能力に応じて、国際センターが提供する日本研修プログラムを勧めている[0702b]。 ・学生の生活支援については、奨学金の推薦書の作成や授業補助員(TA)・研究補助員(RA)制度により金銭面での支援と教育環境・研究環境を充実させている[0101c pp.129-130]。また、さまざまな悩みを抱える学生には学生相談室と連携して対応している[0702c]。学生に対してのハラスメント教育は十分とは言えないが、教職員に対しては工学部教授会で毎年数回ハラスメントに関するDVD視聴により組織的に教育を行っている[0702d]。 ・学生の進路に関しては、各専攻独自の対策が採られており、高い就職内定率で成果が確認される[0702e]。また、各教員が個人のコネクションを利用し、インターンシップ情報を提供している場合もあり、海外留学や海外インターンシップ等の機会を与えている。留学後は研究室単位で報告会を実施している。	
長所・特色 《箇条書き》 * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0702	情報工学専攻では、退学希望者の保護者との面談においては、教員が2名で対応する体制を学科・専攻として基本ルールとしている[0702f]。
項目 No. 0702	最先端企業でのインターンシップや最先端研究室での共同研究等が実施されている。
課題事項 《箇条書き》 * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0702	専攻によっては学生支援の取り組みが組織的でなく、担当教員任せになっていること。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 * 成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
各専攻において、学修ポートフォリオ[0406a]を利活用して、情報を共有し、退学者の予防に努めている。年度始めにすべての大学院生に学修計画書[0404e]を提出させ、研究状況等を把握するとともに、研究指導に活用している。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0702	各専攻における組織的な支援体制の検討と確立。

0702	合理的な配慮申請等に基づき、多様な学生に対する修学支援、障がいのある学生に対する修学支援を行う。
0702	心のケアにも目を向け、学生相談室と連携して学生の精神的健康維持にも努める[0702c]。

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準 8 教育研究等環境

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	B
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

<p>現状説明 * 「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。</p>	
0802	<p>・教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実については、中長期予算票および学部等重点計画案を策定し、学長ヒアリングを受け、施設・設備の充実に向けた検討と設備更新を各専攻に依頼している [0802a] [0802b]。</p> <p>・学生数に対して必要とされる施設・設備は十分とは言えず、複数の学科・専攻が共同で実験室を使う等の対応をしている。また、新型コロナウイルス感染症対策として、パーティションの導入や、ソーシャルディスタンス確保のため教員が個別でスペースチャージエリアを借りるなどの対応を行った。</p>
0806	<p>各専攻会議で教員から意見を求め、研究室、実験室の利活用など、教育研究等環境の適切性について自己点検している。評価・改善の仕組みの一つとして、学科で実施している卒業時アンケート等の情報を収集し、教育研究等環境の適切性について検証している。また、学科独自に組織している「安全管理委員会」において、特に教育・研究環境の安全性について議論し、改善に努めている。さらに、2019年度より毎年、局所排気装置ドラフトチャンバーの風量の自主測定による安全性確認を行っている。これらは、学科のみでは無く、専攻における教育研究環境の改善にもつながる（応用化学専攻） [0806a] [0806b] [0806c]。</p>
<p>長所・特色 < 箇条書き > * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの</p>	
項目 No. 0802	<p>実験・実習室の共同利用（例：工学デザインルーム、ものづくり実習室、SCOPE など）</p>
項目 No. 0802	<p>スペースチャージエリア活用。</p>

項目 No. 0806	卒業時アンケート等の情報を収集し、教育研究等環境の適切性について検証[0806b]。
項目 No. 0806	応用化学科・専攻独自の「安全管理委員会」[0806c]。
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 0806	教育研究等環境の適切性についての定期的な自己点検・評価とそれに基づく改善。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0806	外部資金を確保し、院生の居室をレンタルした。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0802	既存施設の点検と、それに基づく施設、設備の計画的更新および新規整備。
0806	教育研究等環境の適切性についての自己点検・評価とそれに基づく改善の推進。
0806	院生の数に応じたスペースの利用を可能にする。

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準 9 社会連携・社会貢献

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2)社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
		(3)地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明	*「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0902	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻に所属する多くの教員が積極的に学会活動や企業との共同研究を行っており、社会貢献している。また、「研究紹介」[0902a]が大学 HP 上でデジタルブックとして公開されており、各教員の研究の社会連携、社会貢献が周知されているが、実施内容等について自己点検は実施していない専攻も多い。 ・産業技術総合研究所・中部センターとの連携大学院事業[0902b]を継続的に行っており、中部センターの研究者に客員教授[0902c]として大学院の授業を担当してもらうと同時に、学部生・院生の受け入れによる卒業研究・修士研究の実施と、学科教員との共同研究などを行っている。 ・国際交流事業については、コロナの影響もあり、オンライン実施や実施不可となった事業も多い。その中にもあっても毎年、海外学術交流協定校 中国・浙江学院、嘉興学院などからの留学生を受け入れている[0502c]。
長所・特色	《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの
項目 No. 0902	連携大学院による学生教育・共同研究の実施。
課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No. 0902	社会連携・社会貢献に関する活動が各教員の自主的努力に依存していること。
項目 No. 0902	国際交流や研究活動への取り組みが一部の教員に偏りがある。
項目 No. 0902	社会連携・社会貢献および国際交流に関する活動の把握が組織的に行われていない。

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	---

0902 社会連携・貢献や国際交流について把握する方法を検討する。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0902	専攻として各教員の社会連携・社会貢献に関する活動を把握し、支援する体制を構築する。
0902	社会連携・社会貢献に関する教育研究活動を WEB, SNS を通じて積極的に発信する。
0902	社会連携・貢献や国際交流について研究科として把握するとともに、それが評価できるよう教育活動顕彰制度の学部ポイントの評価項目とするなどの検討を進める。

2022年度（対象： 2019～2021 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	工学研究科
--------	-------

基準 11 大学独自の評価項目

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状説明 *「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120 工学研究科委員会、工学研究科専攻主任会等の定例会議は年度始めに年間開催日程を学部教授会で周知し、工学部教職員専用ホームページでも公開している[1120a]。研究科委員会終了後に議事録[1120b]を作成し、構成員に確認のうえ起案・配信している。工学研究科専攻主任会で必要に応じて教育研究活動の検証を行うとともに、適切に議事録を作成し、構成員に確認のうえ起案・配信している[0403b]。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 1120	大学院研究科委員会における会議資料のペーパーレス化を推進するとともに、事前にデジタル化した資料を全構成員に配信。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	専攻主任会における資料のペーパーレス化の推進を図る。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
1120	工学研究科専攻主任会で必要に応じて教育研究活動の検証を行っている[0403b]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	教育研究活動、管理運営に関する定期的な点検・評価とそれに基づく継続的な改善の推進。

2022年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

基準 (シートNo.)	根拠資料No.		根拠資料の名称	提出 区分	
	項目No.	記号			
1. 理念・目的 (NF0101)	0101	a	大学HP 基本理念・使命・教育目的 https://www3.chubu.ac.jp/about/philosophy/	○	
	0101	b	大学HP 教育研究上の目的 大学院工学研究科 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/graduate-list/graduate-engineering/	○	
	0101	c	学生便覧 2021年度	○	
	0102	a	大学院進学説明会	○	
2. 内部質保証 (NF0201)	0203	a	大学HP 中部大学の内部質保証 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/know/quality_assurance/	○	
	0203	b	2021 年度工学研究科自己点検・評価シート	○	
	0203	c	2020 教員活動重点目標・自己評価シート (様式1)	○	
	※0203	d	2021 年度アドバイザーボード会議資料 (応用化学専攻)	○	
	※0203	e	2021年度アドバイザー会議委員回答	○	
	0203	f	2021年度工学部FD講演会	○	
	0203	g	FD会議資料	△	
	0203	h	ホームカミングデー資料	△	
4. 教育課程・学習成果(1) (NF0401)	0401	a	工学研究科委員会議事録(2019. 9. 18)	○	
	0401	b	大学院に関する情報 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/graduate-list/	○	
	0403	a	先端材料工学特論シラバス	○	
	※0403	b	工学研究科専攻主任会議事録	○	
	0403	c	2023年度教育課程変更の有無について	○	
4. 教育課程・学習成果(2) (NF0402)	0404	a	中部大学シラバスの一例 (科学コミュニケーション) https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbssbdr.do?value(risyunen)=2021&value(semekikn)=1&value(kougicd)=28858&value(crlumcd)=02511111002021	○	
	0404	b	シラバス点検依頼文書2022	○	
	0404	c	シラバス「デジタルアースデザイン」	○	
	0404	d	工学部・工学研究科交流会 https://www3.chubu.ac.jp/graduate/engineering/current_students/news/27573/	○	
	0404	e	工学研究科大学院生の学修計画書の指導について (依頼)	○	
	0404	f	工学研究科関連資料 https://www3.chubu.ac.jp/graduate/engineering/current_students/kenkvuka/	○	
	0404	g	持続社会創成教育プログラム工学研究科のガイドライン	○	
	0405	a	2021年度第7回工学研究科委員会議事録(2022. 1. 19)	○	
	0405	b	2021年度第9回工学研究科委員会議事録(2022. 2. 28)	○	
	0405	c	工学研究科博士後期課程学位論文の審査等に関する取扱内規	○	
	0405	d	第6回工学研究科資格審査会議事録(2022. 1. 19)	○	
	4. 教育課程・学習成果(3) (NF0403)	0406	a	(教員用)Tora-Net Portal利用の手引き 学習ポートフォリオ	○
		0406	b	TOEIC, 情報処理技術者試験の結果一覧	△
0406		c	2021年度卒業時アンケート結果 (応用化学専攻)	△	
	0501	a	大学院入試判定基準一覧表	△	
	0502	a	2023年度中部大学大学院入学試験要項	○	

(様式1-4)

5. 学生の受け入れ (NF0501)	0502	b	大学HP 大学院受験情報 https://www.chubu.ac.jp/admissions/entrance-exams/graduate-admission/	○
	0502	c	2020秋学期特別試験大学院要項(工学研究科)	○
6. 教員・教員組織 (NF0601)	0602	a	2020年度工学研究科資格審査会議事録	○
	0602	b	工学部研究科共通科目、持続社会創成科目(例)	○
	0603	a	人事審議会議事録	△
	0603	b	教育職員の人事の手続に関する細則	○
	0603	c	2021年度 第7回工学部教授会議事録	○
	0604	a	2020年度第1回 工学部FD委員会議事録	○
	0604	b	学科・専攻FD講演会開催資料(応用化学専攻)	△
7. 学生支援 (NF0701)	0702	a	2021年度指導教授名簿(工学研究科)	○
	0702	b	日本語支援プログラム募集案内	○
	0702	c	大学HP 学生相談室案内 学生相談室 https://www.chubu.ac.jp/student-life/support/student-counseling/guide/	○
	0702	d	第3、9回工学部 教授会議事録	○
	0702	e	進路状況表	○
	0702	f	面談記録/指導報告書(情報工学専攻)	△
8. 教育研究等環境 (NF0801)	※0802	a	2019年度中期予算計画調査票	○
	※0802	b	2021年度以降における教育・研究に係る学部重点計画案	○
	※0806	a	2020年度アドバイザーボード会議資料(応用科学専攻)	○
	※0806	b	2020年度卒業時アンケート(応用科学専攻)	○
	0806	c	2020年度第1回安全管理委員会議事録(応用科学専攻)	○
9. 社会連携・社会貢献 (NF0901)	0902	a	大学HP 研究紹介2021 https://www.chubu.ac.jp/documents/digibook/researchers-2021/	○
	0902	b	産業技術総合研究所HP 産総研：連携大学院 https://www.aist.go.jp/aist_j/researcher/aboutus/pgs/index.html	○
	0902	c	産業技術総合研究所HP 客員教員紹介(中部大学) https://www.aist.go.jp/aist_j/researcher/aboutus/pgs/chubu/chubu.html	○
11. 大学独自の評価項目 (NF1101)	1120	a	2021年度 工学部・工学研究科定例会議予定	○
	1120	b	工学研究科委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管